

クレアチニン		403000
		担当部署
クレアチニン		生化
検査オーダー		
患者同意に関する要求事項		特記事項なし
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*1.頻用→
	2	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→生化学→
	3	電子カルテ→指示①→検査→*3.緊急→
	4	
	5	
検査に影響する臨床情報		特記事項なし
検査受付時間		緊急対応(24 時間)
検体採取・搬送・保存		
患者の事前準備事項		特記事項なし
検体採取の特別なタイミング		特記事項なし
検体の種類	採取管名	内容物
1	全血	10 青
2	他材料	10 青
3	-	-
4	-	-
5	-	-
6	-	-
7	-	-
8	-	-
検体搬送条件		室温
検体受入不可基準		1)採取容器違いの検体 2)バーコードラベルの貼られていない検体 3)固形物 4)粘性のある検体
保管検体の保存期間		冷蔵・2 週間(追加検査については、検査室に要問合せ)
検査結果・報告		

検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部				
測定時間		当日中～翌日				
生物学的基準範囲		M:0.65-1.07mg/dL F:0.46-0.79mg/dL 日本臨床検査標準化協議会 共用基準範囲				
臨床判断値		設定なし				
基準値					単位	mg/dL
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値	
設定なし	設定なし	0.65	1.07	0.46	0.79	
パニック値	高値	3.00mg/dL(新規の外来患者) 1 週間以上前の前回値と比較し、今回値が 2 倍以上の上昇でポップアップ表示されるため、依頼医師に報告する。 透析患者であることが確認できた場合は報告不要。				
	低値	設定なし				
生理的変動要因		特記事項なし				
臨床的意義		クレアチンは血中非蛋白性窒素化合物の一つであり、主に筋肉内でクレアチンから非酵素的脱水反応により産生される最終代謝産物である。クレアチンは生物学的活性を持たず尿中にのみに排泄され、腎機能の低下とともに血中で上昇するため、腎機能の指標に用いられる。 三菱化学メディエンス 検査項目解説第 4 版 42,2008				